



埼玉整報 春号

第46回 関東学術大会 埼玉大会が開催される

総務部長 山本 光彦

去る3月8日(日)さいたま市の大宮ソニックシティにおいて、「関東学術大会 埼玉大会」が盛大に開催されました。本大会は関東ブロック単独として最後を飾る節目となり、次年度からは関東・東京ブロック共同開催という新たなステージに進むこととなります。

特別講演では、医療法人社団宏友会 栗原整形外科 院長 栗原 友介先生を講師にお招きし「腰のための正しい姿勢について」をご講演いただきました。豊富な臨床経験に基づく正しい姿勢指導に加え、医師と柔道整復師の連携の重要性についても触れられ、最新の知見を得る大変貴重な機会となりました。

学術教育部による提言では、日整の方針である「匠の技伝承プロジェクトの意義」と現代の臨床に不可欠な「エコーを柔整師の手に」について発表されました。これを受けた、日整「匠の技」ワークショップでは、日整および本会の指導者が中心となり、「足周辺の骨折(外果骨折)と顎関節脱臼」の整復・固定、さらに、「超音波観察装置の観察法」の実技演習を実施しました。伝統的な手技と最新技術を融合させた熱気あふれる研鑽の場となりました。また、地元大宮支部の松林章博会員が「下腿疲労骨折に対する競技継続を考慮した段階的な固定による保存療法の取り組み」について発表し、スポーツ現場に即した実践的な研究成果に、会場から惜しみない拍手が送られました。今大会を通じて、伝統技術の継承と科学的評価の融合、そして医接連携の深化という、我々が向かうべき未来を再確認することができました。

閉会式では発表を行った各県の会員へ表彰楯が贈呈され、盛況のうちに幕を閉じました。役員、支部長、部員、事務局が一体となり埼玉県柔道整復師会の結束力と技術力の高さを改めて示すことができた、極めて有意義な一日となりました。

～開会式～



～ 第46回関東学術大会埼玉大会 ～



～ 「日整匠の技伝承」 プロジェクト ワークショップ ～



2025年度 市民公開講座・介護予防機能訓練フォローアップ講習会

事業部長 増田 泉

1月18日（日）市民公開講座・介護予防機能訓練フォローアップ講習会が埼整会館で開催されました。「日々の運動は心身の健康につながる」という演題で、講師はインターハイや世界選手権に出場経験がある石塚祐輔さんでした。

開会前、先生は講演で話すのは苦手と、レースをするより何倍も緊張するとおっしゃっていましたが、そこは高校の教師ということもありユーモアを交え分かりやすいお話で、体の動きを使いながらすぐに参加者を虜にし、数分経つ頃は先生も笑顔が出て緊張が解けていたように見えました。

講演の前半は中学時代に野球から陸上競技に進んだ転機の話から、インターハイの映像あり、世界選手権の話、ライバル金丸祐三選手とのレースの話、フライングでオリンピックを逃した話、色々な転機があったと話されました。その中でも、今でも恩師に伝えられ転機となった言葉「素直・謙虚・感謝」この言葉を胸に現在も活躍されているそうです。

講演の後半は実技で、椅子に座りタオルを使って肩・首のストレッチと、ペットボトルを使って股関節の運動。立位でのハムストリングのストレッチなど。先生も腰を故障した際に体の柔軟性に注目したそうで、最後に肩甲骨の柔軟性のお話で先生自身の肩甲骨の動きを映像で再生してくれました。

質問の時間では「肩甲骨の動きを実演してください」と言われ実際に上半身裸になり、肩甲骨を見せてくれました。参加者は肩甲骨の動きを見て、感動し驚いていました。

他にも、走り方の簡単な教え方、腕の振りの重要性や走行時の地面のけり方など質問は尽きませんでした。

参加者の皆さんは、陸上競技のトップアスリートの講演を聞いた貴重な時間でした。

大盛況のなか終了となりました。



第49回公益社団法人 埼玉県柔道整復師会柔道大会

日整全国少年柔道大会
日整全国柔道「形」競技会
出場選手選考会

令和8年5月31日(日) 9:30~

深谷市総合体育館

深谷ビッグタートル

大会要項・申込書は
本会ホームページに掲載

主催 公益社団法人 埼玉県柔道整復師会
後援 埼玉県 埼玉県柔道連盟
協賛 埼玉県柔道整復師協同組合
主管 公益社団法人 埼玉県柔道整復師会事業部

